

ふるさと三条応援寄附金 推進事業について

Q 寄附の状況を見てみると、令和2年度では件数で2万3981件、金額で約7億円の見込みになっている。令和元年度の2億7000万円に比べると大幅な増加になっているが、燕市は金額で50億円を超えたと聞かれている。

A 今後は、財政の緊迫も叫ばれており、抜本的な改革が必要と考えるがどうか。
Q 歳入の確保として、ふるさと納税による寄附金の増加については、力を入れて取り組むべき施策と考えている。
A 市長として具体的な方策については、現在さまざまな検討を進めている。

幼児期における音楽教育の充実について

Q 一般的に音楽教育は、音楽の演奏や鑑賞などを通じて豊かな情操を養う重要な人間形成の手段とされている。三条市には、演奏を通じて子どもたちの情操教育に貢献したいと思っている音楽家が多くおられるが、その方々に協力を願うべき考えはないのか。
A 今後は、市内の施設に対して音楽家による活動を奨励し、幼児教育の充実を図ってまいりたい。

キャッシュレス化推進に関する包括連携協定について

Q ペイペイ株式会社とキャッシュレス化推進に関する包括連携協定を締結して1年以上になるが、その進捗状況はどうか。
A 導入に関するセミナーや相談窓口の開設、使い方講座等を実施したり、市税の納入、手数料や使用料の支払いに利用できるようにした。

Q 日本全国で50を超える自治体が国の地方創生臨時交付金や県の補助金を利用して、感染症の影響を受けた事業者の持続化を図るため、ペイペイを利用した消費者還元キャンペーンを実施し、高評価を受けているが、キャッシュレス決済日本一を目指す三条市でも、行うべきではないか。

A 三条市で行ったさまざまな補助金等の事業は、極めて有効だったので、消費者還元キャンペーンを実施する余地はない。

Q キャッシュレス決済日本一を今は目指していないのか。

A キャッシュレス決済を、市民にしっかりと進めていくという方針は変わ



病院での演奏会

目指すまちなかの姿について

Q 感染症下にも、まちなかのにぎわい創出について方向転換はあるか。
A ワクチン接種も始まるので今までの方針を踏襲するが、学生のまちなか居住促進や、キャンプなどを使った移住への取り組みなど、新しいにぎわい創出にも挑戦していく。

車道除雪の出動基準について

Q ホームページに表記されている除雪基準が守られていないと市民から要望があったが把握しているか。
A 降雪状況によってはさまざまな事情から遅延が生じることがどうしてもあるのでご理解いただきたい。また、誤解を生まないよう今後ホームページでの表も検討していく。



ペイペイを活用した日光市の消費者還元キャンペーン

市民のデジタル化推進について

Q 低所得や失業中の市民にICT機器の購入や通信環境整備、維持の補助金制度を行ったらどうか。
A ハローワークの求職支援制度等があるので、市独自の補助金は考えていない。



感染症下の事業者支援について

Q 再三延長された「事業継続等支援補助金」が条件変更された経緯の説明を求めます。

A 商況の把握は、感染拡大の影響が大きいとみられる業種を定点観測で調査、各業界団体との意見交換で把握してきた。調査を重ね、業種間、同業内での業況の二極化や、第三波の影響が甚大な業種を考慮し、集中支援できるようにした。今後は個々の事業者に寄り添って直接ヒアリングなど、丁寧に情報収集し支援策を決定していきたい。

新型コロナウイルス感染症への対応について

Q ワクチン接種計画を策定する上で困っていることは何か。

A 国から4月26日の週以降に、全国の自治体にワクチンが配送される予定を示されているが、それ以降の配送量や配送時期が具体的に示されていない。また、副反応が発生した時に対応する医療機関の確保や、移動が困難な高齢者の接種会場までの移動手段の確保などが課題である。

市役所の男性職員の育休について

Q 市役所で働く職員の子育て支援についての市長の見解はどうか。特に、育休を女性職員はほぼ全員が取得する現状で、男性職員は数年に一人、期間は一週間程度の取得状況をどう思うか。

A 子育ては夫婦で取り組むことが重要。職場において性別を問わず、子育てのための休暇等を取ってできる環境を整えていく必要があるものと考えている。

不妊治療費助成制度について

Q 令和4年度から不妊治療費が保険適用となる。それまでの間、国は不妊治療費助成制度を大幅に拡充する。子どもを産み育てやすい三条市にするため、不妊治療への検査および治療費助成をしてはどうか。

A 国が拡充する不妊治療の支援内容が利用者にとって十分な内容か見極めた上で、どういった支援が必要か今後検討していきたい。



CHECK! 常任委員会 審査レポート

詳しく議案を審査します！

景況感等を十分加味し、見通しを立てたい

議第1号
令和3年度三条市一般会計予算

Q 新型コロナウイルスのワクチン接種が終わると消費も回復するのではという予想もあるが、税収の見通しはどうか。

A 令和3年度の予算算定に当たり、新型コロナウイルスの影響による所得金額の減、あるいは法人の企業収益の減というところで、景況感等を加味して見積りした。令和4年度以降は、ワクチン接種が始まって先行きは現時点では不明であり、その時々々の景況感等を十分加味し、見通しを立てたい。

Q 広報さんじょうは月2回の発行であるが、自治会や職員がかなり難儀をしている話も聞く。県内で月2回発行しているところはあるか。

A 月1回発行が13市町村、月2回発行が17市町村である。自治会や職員の負担を考慮し、来年度情報発信の

在り方全体についてしっかりと検討を進めたい。

議第12号
公立大学法人三条市立大学中期目標について

Q 地域貢献に関する目標として、地域企業との連携推進とあるが、燕市との関係はどうなっているか。

A 燕市あるいは燕商工会議所に関しては、学長自ら訪問し協力を願っている。また、産学連携実習については、燕市の企業にも参画いただき、幅広い地域の企業から協力いただく形で取り組みを進めている。



付託された議案のうち、議第1号は賛成多数で、その他は全員異議なく原案の通り決定すべきものとした。